

# 医療分野における 図書館パスファインダーの可能性を探る（２）

市川美智子、坪内政義  
愛知医科大学医学情報センター（図書館）

## 背景と目的

第22回大会（2005年7月）で、パスファインダー(Library Pathfinder)が初学者の情報探索行動を手助けする有用なツールであることを紹介した。その発表では、医療系図書館（室）にパスファインダーをPRすることを目的としていたため、作成上の基本的なポイントやメリットを中心に取り上げた。その後、当館では学部生向けにパスファインダーを作成していたが、一般市民向けにアレンジしたものをホームページで公開することで、患者や地域住民の情報収集活動を支援できるのではないかと考えるようになった。そこで今回の発表では、消費者医療情報サービスの観点から試作したパスファインダーを展示する。公開に向け、すでに患者図書室等を展開している参加者や公共図書館の方々から意見を伺うとともに、各機関と連携を持つ機会としたい。

## 学部生対象と一般市民対象（試作）の主な違い

項目	学部生対象	一般市民対象（試作）
形式	html形式	印刷、保存、加工が可能なWord形式も用意
掲載情報のレベル	基本知識といえども、専門書を中心とし、外国語DBも対象とする。	薬品、治療、介護、栄養、闘病記など、一般市民のニーズに見合う情報を中心に展開。公共図書館OPACや国内文献情報の探し方も対象とする。
注記	特になし	「EBMとは」、「診療ガイドラインとは」、「医学書選びのポイント」などを盛り込む。

## 今後の課題

学部生対象の情報と一般市民対象の情報をひとつのパスファインダーに集約し、記載した情報に「専門度レベル」や「推薦レベル」を付記することを模索している。図書館員個人の経験や判断に偏らず、どの主題に対しても平等で適切な格付けを付すのための指標作りが課題である。

## 主要参考文献

- (1) 鹿島みづき、山口純代、小嶋智美．パスファインダー・LCSH・メタデータの理解と実践：図書館員のための主題検索ツール作成ガイド．東京：紀伊國屋書店，2005．
- (2) 市川美智子．図書館パスファインダー作成報告とその可能性．医学図書館 2006；53(1)：55-59．